

## 佐賀県鳥栖市長が対馬市長を訪問

～ 歴史のつながりを契機に、地域間交流の促進へ～

1月19日、20日の2日間、鳥栖市の牟田秀敏市長が対馬市を訪問されました。これは、江戸時代に対馬藩が飛地として治めていた肥前国田代が、現在の佐賀県鳥栖市東部及び基山町にあたり、この時、対馬から次席代官として赴任した賀島兵介は、同地で善政を行い領民に慕われました。そのため現在でもその功績を偲んで、毎年、鳥栖市と基山町が共催(事務局基山町)の「賀島祭」が行われているそうです。

このような歴史的なつながりを持つことから牟田市長が対馬市を訪れたもので、松村市長との会談では、今後、両市がそれぞれの地域の特性を生かし、お互いの市の発展へ向けて、市民レベルでの地域間交流を促進させることを確認しました。



握手を交わす牟田市長と松村市長

## ツシマヤマネコ保全計画づくり国際ワークショップ開催される

市民も参加して、ツシマヤマネコの保護へ向けた具体的な行動計画の指針が作成される



活発な討論が行われたワークショップの様子

「ツシマヤマネコと共生する地域社会を目指して」をテーマに、1月9日から11日まで、美津島文化会館を会場に、海外や国内の動物保護に関する専門家、市民代表、行政関係者、NPOなど約120名が一堂に会し、ツシマヤマネコ保全計画づくり国際ワークショップが開催されました。

ワークショップでは、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくり、生息域内保全、飼育下繁殖、感染症対策の4つの作業グループに分かれ、それぞれの課題、分析、目標設定を踏まえ、ツシマヤマネコ保全のための行動計画の指針が作成されました。

ワークショップ最終日の午後7時から市民ワークショップが開かれ、各グループがまとめた指針が発表されました。生息域内保全のグループでは、10年以内に交通事故をなくすこと等を目標に、道路の建設・改修について生き物に配慮することを計画段階から専門家が参加する体制を作ること等が提案され、また、感染症対策グループでは、ノラネコや飼い猫からのネコエイズ等の感染を防ぐため、条例制定による飼い猫の登録制度の導入等が提案されました。

した。

海外から参加し、行動計画作成に加わった国際自然保護連合の種の保存委員会、保全繁殖専門家グループのフィル・ミラーさんは「地域の人は対馬ヤマネコの現状に対する意識は薄いようです。地域住民のあり方が数の減少を食い止めることに大きな役割を果たします。ちょっとした意識、例えば車のスピードを出さずに運転することによって、交通事故を防ぐだけでも、絶滅への危機を大きく回避できます」と地域住民との関係の重要性を語っていました。



一般市民に公開された市民ワークショップ

ワークショップ：参加者全員が知識・経験を持ち寄って話し合いを重ねる形の集会

## 漫画で里帰りを呼びかけ

「対馬津軽会」津軽「つしま」姓ルーツ物語

厳原町の市民グループ「対馬津軽会」（上原正行会長）が、青森県津軽地方に多い「つしま」の姓のルーツを探り、歴史の縁で結ばれた対馬と津軽の関係をわかりやすく解説した漫画を制作。全国の「つしま」さんに対馬への里帰りを呼びかけています。

漫画では、今から約700年前、蒙古（元）が対馬に襲来した際、対馬から北部九州へ向けて避難した舟がしけで遭難。漂流中に津軽の水軍に救助された対馬の人々は、その後故郷へ帰ることを断念し、津軽に住み着き「つしま」と名乗ったことで、津軽地方には対馬、津島、対島、津嶋など多くの「つしま」姓があることが、12コマの漫画で描かれています。

イラストを担当したのは、厳原町で絵画を教えている「モミジ」こと椛田幸太郎さん（25歳）です。

同会は、漫画を500部作成し、地元や津軽の関係者に配布しました。

また、ホームページ「対馬あれこれねっと」  
<http://www1.ocn.ne.jp/~kurose/>  
 でもわかりやすく公開されています。

（問い合わせ先）対馬津軽会  
 TEL 0920-5210028



## 飲酒運転追放を宣言

建設業協会対馬支部及び対馬南署管内漁協



飲酒運転追放宣言を行う星野対馬支部長

長崎県建設業協会対馬支部（37社）と対馬南警察署管内の漁業協同組合（6組合）を代表し、星野建設㈱の星野光樹対馬支店長と豊玉町漁協の根津廣次組合長の2名が、12月15日、同署で飲酒運転追放を宣言。率先して飲酒運転の追放と交通事故撲滅に取り組むことを、対馬南警察署長に誓いました。

宣言を行った星野支部長は「飲酒運転追放が末端の社員や家族まで浸透するよう、啓発活動を徹底いたします」と語っていました。

対馬の経済を支える建設業及び漁業の従事者は約7,000人です。（H12国勢調査調べ）

## 卒業後は釜山の大学へ 対馬高校から5名が留学

今年3月に初めての卒業生を送り出す県立対馬高校の国際文化交流コースから、韓国釜山市の釜慶大学校へ2名と東亜大学校へ3名進学することが決まりました。

彼女たちは全員対馬島外の中学校出身で、韓国の言葉や文化、歴史などが学べる同コースで3年間勉強や交流に励んできました。

卒業後も韓国についてさらに学び、将来の職業に生かしたいとの思いから韓国への留学を希望し、無事大学校側より合格の内定を受けました。

「日韓の架け橋として活躍したい」「韓国の企業に務めて多くの日本の方に韓国を好きになってもらいたい」など夢は一人ひとり違いますが、全員希望に目が輝いていました。



上段：釜慶大学校へ留学する 河野美幸さん（左）加藤久美さん（右）

下段：東亜大学校へ留学する 園田美和さん（左）永田美奈都さん（中央）辻佳菜子さん（右）

おだひさと  
**小田久人さん(美津島町)**  
消防功労者として瑞宝双光章を受章



入団以来、51年間余りにわたって地域の消防防災活動に尽くしてこられた美津島町小船越の小田久人さんに、消防功労者として瑞宝双光章が贈られました。小田さんは、昭和27年1月に船越村消防団に入団。昭和47年12月から9年間にわたって美津島町消防団の指導員として活躍され、昭和56年11月から18年間にわたり同副団長、平成12年6月から対馬6町合併を機に退職されるまで同団長として務

められました。受章にあたり「このような賞をいただき大変うれしく思っています。私を支えてくれた団員の皆さん達に感謝しています」と喜びを語ると共に「若い団員の皆さんもよく頑張っておられます。大変でしょうが自分たちの地域を守るために、これからも力を尽くして下さい」と後輩への激励の言葉を語ってらっしゃいました。栄えある受章おめでとございます。

**新春恒例釣り大将**



各部門の優勝者たち  
左から竹内克己さん、井上魁人くん、扇祥さん

1月15日、対馬観光物産協会上対馬支部主催の「2006かみつしま釣り大将」が島内外から39名の参加者を集め行われました。終日、穏やかな天候にもめぐまれ、親子での参加者もありました。結果は次のとおりです。(敬称略)

- 【高校生・一般の部】  
クロの部 扇祥(上対馬)1,630g 若松昌信(上対馬)1,220g  
磯部修(上県)1,095g 大量賞(クロ5匹の重量) 竹内克己(北九州市)4,280g 篠田良治(上対馬)4,145g 西田孫比古(北九州市)3,940g 特別賞 クロ以外の大物魚 板山俊典(上県)605g  
【小・中学生の部】 総重量賞 井上魁人(美津島)5,880g  
板山航太(上県)2,090g 網代隆志(上対馬)1,980g 島居龍太(上対馬)1,550g

**火災から文化財を守れ**  
県立対馬歴史民俗資料館で防火訓練



フォグガンを使用する訓練

「文化財防火デー」の1月26日、厳原町の県立対馬歴史民俗資料館で防火訓練が実施されました。訓練には対馬市消防署や厳原地区消防団(第2、第5分団)ら約40名が参加。館内の作業室から火災が発生し、資料展示室へ延焼が拡大したとの想定で、職員による119番通報及び避難誘導のほか、消防署と消防団による放水が行われました。今回消防署は、フォグガンと呼ばれる消火器具を使用。これは高い圧力をかけて水を霧状にして噴射することで、空気を遮断し、温度を低下させて火を効果的に消火するものです。通常の放水と違い、水の圧力により文化財を破損する恐れが少なくなるそうです。同資料館には、1階で展示中の約100点の資料のほか、2階収蔵庫には、宗家文庫史料約7万点を含む約10万点の史料が収蔵されており、これら貴重な文化財を守るため、参加者は真剣な表情で訓練を行っていました。





## パワーズAが優勝 県大会出場へ ( 巖原町 )

第3回長崎県ねんりんピック対馬市予選

1月15日、美津島町のあそびパークで第3回長崎県ねんりんピック対馬市予選兼つしまライオンズクラブ杯グラウンドゴルフ大会が開催されました。大会には、41チーム、201名が参加。競技は8ホール、3ラウンドで行われ、巖原町のパワーズAが優勝。上対馬町のさわやかAが準優勝しました。両チームは5月13日に諫早市で開催される長崎県ねんりんピックへの出場権を獲得しました。

パワーズAチームの皆さん  
植村正江さん・仁位勝良さん・植村忠光さん  
一宮直美さん・蕃建明男さん・井友弘さん

優勝したパワーズ(八坂邦会長)は2年連続の出場。22人が所属し、週3回練習を行っています。

1月8日、長崎市の県立総合体育館で行われた第28回長崎県女子剣道大会で、巖原少年剣道部が団体戦に出場し、見事3位に入賞しました。

この大会は、小学生が団体戦、中学生以上は個人戦で、県下では唯一の女子だけの大会。小学生団体には県内各地から76チームが出場しました。同部は、2回戦の対上五島戦では、先鋒・中堅が引き分ける苦しい試合展開となりましたが、大将戦を勝利で飾り3回戦へ駒を進め、最後には優勝した島原剣心館Aに破れましたが、離島勢では唯一の入賞となりました。

## 巖原少年剣道部が3位入賞

第28回長崎県女子剣道大会



先鋒:井川祐香さん(5年) 大将:天野真歩さん(6年) 中堅:川添<sup>このの</sup>辞乃さん(5年)

私たち豊老人クラブ(上対馬町)は、年度当初に事業計画を立てて、各事業を進めています。その中で今年度は、区内の山の山頂(海拔約100m)にある万歳峠記念碑(日本海戦捷記念碑)を訪ねました。この碑の由来は、100年前の明治38年5月27日午後2時に、そこを通りかかった豊の領主である洲河藤十郎氏が、ロシア艦船が沈没する様子を肉眼で確認し、万歳を唱えたこ

## 豊老人クラブ活動報告

### 歴史を尋ねて

武末英二さん



とから、以後、この峠は万歳峠と名付けられたようです。万歳峠記念碑探索のメンバーは、上は90歳から下は66歳までの15名で編成しました。90歳のおばあちゃんは、腰が曲がっているものの元気に参加しました。そして、一番先頭に立って歩く姿には頭が下がる思いがしました。その万歳峠記念碑の前で昼食をとり、楽しい一時を過ごしました。